

発行所  
 特定医療法人五省会西能病院  
 〒930-0884 富山市五福1130  
 TEL (076) 441-2481(代)  
 発行人 西能 正一郎

# 五省会ニュース

五省  
 一 至誠は情なきなりしか  
 一 言行は恥ぢなきなりしか  
 一 氣力は怠るなきなりしか  
 一 努力は憾みなきなりしか  
 一 不精は怠るなきなりしか

来年四月にスタートする六十五歳以上のお年寄りの介護保険の負担する保険料の試算値が相次いで公表された。また、厚生省から業者に支払う介護報酬の仮単価も示された。しかし、お年寄りは、負担増や格差に不安をもっており、施設と在宅の選択にも迷いをもっている。そこで、渡辺事務部長から、病院の対応などについて聞いてみた。

## 指定申請の対応は、これから

### 介護保険について

#### 担当の渡辺事務部長に聞く

厚生省は八月二十三日、来月四月に導入予定の介護保険制度のサービスの対価としての仮単価を医療保険福祉審議会に報告し、公表した。

一般的に居宅介護サービスは高水準の単価設定となつたため、民間事業者にとつては新規参入がしやすい環境がととのつたと言われているが、施設介護については、当初言われていた療養型病床群の基準額より三万円も少ない四十三万一千円となり、在宅介護サービスと比べ低く押さえられた。

本年六月より開始された居宅介護サービスの指定申請とともに、介護保険適用部分と医療保険適用部分の役割がどのようになるのか、また報酬上の影響がどのようになるのか、介護・医療の適切な割合がどのようになるのか、ケアマネージャーの任

## 休日診療について

西能 正一郎

記録によると当院で休日診療を開始したのは、昭和六十三年四月一日からである。早いもので爾来すでに十一年を経過したのでどうしてこんな事になつたのか思い起こしてみたい。

勤労者の生き甲斐のキャッチフレーズの下に当時の世の中では急に週休二日を導入する企業が増えて来た。医療界といえども蚊帳の外に居るわけにはゆかず、時流に乗ってゆかねばならない。週休一日である限りにおいては、日曜を休日にして玄関を閉めておけば済むが、地域医療のためと銘打って奉仕している当院が、まさか二日も玄関を閉めて置くわけにはゆかない。

## 「経営戦略」が職員に浸透

一口に休日に仕事をするといっても、どの医療機関でも(院長が一人で頑張っている診療所程度のものでない限り)そう手安く実現出来るものではない。職員が公務員である公的病院ではまず不可能。次に労働組合の出来ている医療機関でも先ず難しがる。職員の根性をしっかり握っている経営者でなければ考えられない出来事であると思われ。

幸いにも私は、西能病院という一介の個人病

務が職務上どのような位置付けになるのか等々、基本的な対応を策定してなく、今、腰を上げつつあるのが正直な所である。

富山県に指定申請するサービスとしては、訪問入浴介護、訪問看護、通所リハビリ、居宅介護支援事業者を考えている。

療養型病床群のうち介護保険適用部分と医療保険適用部分の役割がどのようになるのか、また報酬上の影響がどのようになるのか、介護・医療の適切な割合がどのようになるのか、ケアマネージャーの任

## 水・金の週二回に 辻名譽教授の脊椎外来

整形外科の脊椎外来は、週一回だったが、九月から水・金の二回になった。

ある辻陽雄

## 患者様の不安解決を 日本福祉大生が実習

日本福祉大学三回生石川権一さん(魚津市出身)が、七月二十六日から八月十日までの



この間、MSWの業務に同行して感じたことは患者さまの多くが何らかの問題や不安を抱えておられるということでした。これらの解決に向けて何をすべきかを考え、行動していかなければならないと感じました。

また、患者さまともたくさん話すことが出来た。実習目標はほぼ達成できたと思います。実習中に得たものを今後の学習に活かす、頑張っていきたいと思います。

日本福祉大学三回生石川権一さん(魚津市出身)が、七月二十六日から八月十日までの

この間、MSWの業務に同行して感じたことは患者さまの多くが何らかの問題や不安を抱えておられるということでした。これらの解決に向けて何をすべきかを考え、行動していかなければならないと感じました。

## あすなろ

今年の夏は暑かった。といっても全国すべてというわけではない。北熱西冷で四国九州では雨ばかり降っていたらしい。県内は七月の梅雨明けからカンカン照りの毎日夏目。今日の気温は日本一という日もあり、他県の友人や親類から見舞い電話を受ける始末だった。九月にはいつても残暑はきびしかったが、驚いたのはすっかり干上がった垣根や空地や畑、路傍や河原にいつのまにか秋の草花が顔を出していることだった。微妙な季節の変化を感じ分け、順序を狂わせずに花を咲かせていく大自然の妙に感嘆せざるを得ない。

秋の七草といえは「ハギ・オバナ・クズの花、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、キキョウ、これぞ七草」と歌にして覚えたものだが、もつとも自然の形を残していると思われた各地の湿原地帯が少しずつ様変わりしている。ある植物学者に聞いた。その元兇は外国種の侵入だ。かつてセイダカアワダチ草や西洋タンポポが日本中を席巻したのを思い出す。秋の風情に欠かせぬススキやカルクヤの穂波を調べたら徐々に外国種に肩代わりしているようだ。そういえば茎も葉もヒヨロヒヨロ長く、淡色の頼りなげなコスモスが、いつしか似ても似つかぬ毒々しい原色の花を強硬な茎に支えられて突っ立っているのを見る。日本の秋の風景も、いつの間にか変わってしまうのだろうか。

## 「経営戦略」が職員に浸透

病院長も影響がなかったわけでは無いが、いち早く立ち直れたのは休日診療のお陰であろうと思っている。

私は十一年間も日本病院学会の常任理事をつとめていたので、病院長の友人も多い。その二、三人の人が、休日診療の事を聞きつけて見学に来られるが、私は、「よく考えて取り組まれませ、始めたら止められませよ」と云うことになっている。

西能病院での十六日間の医療福祉実習は、あっという間に過ぎていきました。私はここへ医療ソーシャルワーカー(以下MSWとす)の役割と、その業

この間、MSWの業務に同行して感じたことは患者さまの多くが何らかの問題や不安を抱えておられるということでした。これらの解決に向けて何をすべきかを考え、行動していかなければならないと感じました。

今年の夏は暑かった。といっても全国すべてというわけではない。北熱西冷で四国九州では雨ばかり降っていたらしい。県内は七月の梅雨明けからカンカン照りの毎日夏目。今日の気温は日本一という日もあり、他県の友人や親類から見舞い電話を受ける始末だった。九月にはいつても残暑はきびしかったが、驚いたのはすっかり干上がった垣根や空地や畑、路傍や河原にいつのまにか秋の草花が顔を出していることだった。微妙な季節の変化を感じ分け、順序を狂わせずに花を咲かせていく大自然の妙に感嘆せざるを得ない。



患者さまから話を聞く石川さん(右)

坂野上三回生も 日本福祉大学三回生坂野上三さん(高岡市出身)が、八月二十三日から九月七日まで十六日間、西能病院で、ソーシャルワーカーの実習として指導を受けた。







# 足浴や血圧測定を

## 呉羽中学二年生が体験実習

夏休み中の七月二十二日の午前、富山市立呉羽中学校の二年生十人（うち男子生徒一人）が、職場体験実習のため西能病院を訪問した。これは自ら進路情報の収集に努め、将来の職業選択の参考にしようとするもの。

午前九時、小会議室で、渡辺事務部長と坂倉看護部長の講話、新人看護婦の菅久美子さんから「仕事をしたいの喜びや辛さ」の作文を聞いたあと、二班に分れて院内を見学した。

このあと、体験学習に入り、実習用エプロン、三角巾を身につけた生徒たちは、三階のデイルームで、患者さまの足浴を。初めての足浴に戸惑いながらも熱心に取り組んでいた。また血圧測定などを体験した。

おわって、午前十一時四十五分から小会議室で昼食会。西能院長が、「今回の体験実習が生徒の皆さまの、将来の職業選択の参考にすれば幸いです」と挨拶した。

つぎは、生徒代表（三人）の感想文である。「ありがとう」で苦勞がむくわれた



懸命に足浴に精を出す生徒たち

体験実習の足浴をする時、患者様それぞれ一人ひとりの体の健康状態にとて気をつかい、力加減などのベテラン看護婦にしかできないような作業をやら

せてもらうことができ、とても勉強になり、学ぶことが多かったです。足浴した後の患者さまの「ありがとう」という一言で、苦勞してきただけがむくわれるような気がしました。

その時、看護婦は生きがいがあり、他の仕事と何か一味違っていると思えました。（西角菜摘）

そのたいへんだったけど、がんばったことと、患者さまとふれて緊張して何も会話できなかったけど、必死でお世話したことが伝わっていいと思えました。

今日だけの小さなお世話だったかも知れないけれど、私にとっては、とても大きな体験となりました。

そして、病気の人の支えになつていきたいという思いがこみあげてきました。（中村 悠）

今日の学習体験を生かして、進路について考える時の参考にしようと思えました。

患者さまと看護婦さんのコミュニケーションが、ふだんから取れているんだなと、思えていたことが一番、私の心の中に、とても強く残りました。

きつと、それは、看護婦さんの親切な言葉が患者さまとコミュニケーションをとれる一番のやり方なのだなととても勉強になりました。そして、気持ちよくなったのでよかったです。（高橋里枝）

# 病院だより

## 八月

一日 富山県護国神社外苑の富山市相撲場で開かれた富山少年相撲大会（主催富山少年相撲連盟）に救護班。

七日、八日 県立大学グラウンドで開かれた呉羽サッカーフェスティバル（呉羽ジュニアFC父母の会主催）に救護班。

十二日 呉羽スポーツプラザで、互助会のボーリング大会。職員四十八人が参加した。

十三日 この一年間に病院で死去された四十五名の物故者法要を正階和室で営んだ。

## 九月

二十一日、二十二日 第十八回神通杯争奪富山少年サッカーフェスティバル（藤沢薬品工業グラウンド）に救護班。

安全協会主催の第十一回自衛消防隊消防操法大会が県消防学校で開催。西能病院から屋内消火栓の部（一チーム三人）に男女二チーム消火器の部（個人）に男女二人の合計八人が出場、日ごろの訓練成果を競った。消火器の部で、横井佐敏さんと坂井亜紀さんが入賞した。（写真上は出場者）

八日 呉羽ハイイツで開かれた五福校下身障者の集い（五福校下社会福祉協議会主催）に救護班。

十九日、二十日 職員旅行の第一班が和倉温泉美濃荘へ。

二十五日、二十六日 職員旅行の第二班が美濃荘へ。（なお、第三、四班は十月）

# 高校球児の熱意を看護に

その仕事が好きか、興味をもっているかどうか、自問自答する。それでは仕事を好きになるためにはどうすればいいのかわかるか。仕事に興味をもてるかどうかの大部分は、その仕事、熱意が湧いてくる。と言っている。

高校球児に負けない程の熱意を持って日々の看護の仕事に努めたいと思っています。（看護部部長 坪内奈津子）

## 八月

一日 富山県護国神社外苑の富山市相撲場で開かれた富山少年相撲大会（主催富山少年相撲連盟）に救護班。

七日、八日 県立大学グラウンドで開かれた呉羽サッカーフェスティバル（呉羽ジュニアFC父母の会主催）に救護班。

十二日 呉羽スポーツプラザで、互助会のボーリング大会。職員四十八人が参加した。

十三日 この一年間に病院で死去された四十五名の物故者法要を正階和室で営んだ。

## 九月

二十一日、二十二日 第十八回神通杯争奪富山少年サッカーフェスティバル（藤沢薬品工業グラウンド）に救護班。

安全協会主催の第十一回自衛消防隊消防操法大会が県消防学校で開催。西能病院から屋内消火栓の部（一チーム三人）に男女二チーム消火器の部（個人）に男女二人の合計八人が出場、日ごろの訓練成果を競った。消火器の部で、横井佐敏さんと坂井亜紀さんが入賞した。（写真上は出場者）

八日 呉羽ハイイツで開かれた五福校下身障者の集い（五福校下社会福祉協議会主催）に救護班。

十九日、二十日 職員旅行の第一班が和倉温泉美濃荘へ。

二十五日、二十六日 職員旅行の第二班が美濃荘へ。（なお、第三、四班は十月）

# 診療体制のご案内

通院バスのご案内

<b>休日診療</b> (日曜日・祝日) 午前8時30分～午後5時 		<b>平日診療</b> (月曜日～土曜日) 		<b>通院バスのご案内</b> ①富山駅・西町コース ②海中・長沢・金屋方面 ③呉羽・中老田・北代・田川屋方面								
<b>整形外科</b> 午前 8:30～12:00 午後 4:00～7:00	<b>内科</b> 午前 8:30～12:00 午後 3:00～5:00 (火・金曜日は7:00)	<b>脊椎外来</b> 水・金曜日 午前 9:00～12:00	<b>泌尿器科外来</b> 月曜日 午後 1:30～5:00 土曜日 午前 9:00～12:00	<b>人間ドック</b> 日帰りコース 1泊2日コース 2泊3日コース 3泊4日コース (申込先) 健康事業部 8:30～17:30	<b>リハビリテーション科</b> 午前 8:30～12:00 午後 1:30～7:00	<b>糖尿病外来</b> 月・水・木・金曜日 午前 9:00～12:00 午後 3:00～5:00	<b>神経内科外来</b> 土曜日 午前 9:00～12:00	<b>スポーツ整形外科</b> 水・土曜日 午後 4:00～7:00	<b>体力測定</b> 月～金曜日 午前10:00～午後5:00	<b>循環器外来</b> 火・木曜日 午前 8:30～12:00	<b>画像センター</b> MRI・CT・骨密度	<b>栄養指導</b> 月曜日～土曜日 午前10:00～11:00 <b>在宅診療・看護</b> 月～水 午後1:30～4:00



朝礼のスピーチ

故松下幸之助は、高校野球が好きで、よく観戦していたそうです。「この酷暑の中でも彼らは嬉々としてやっている。仕事もこんな気持ちでやれないものか。野球を楽しむように、仕事を楽しむ、そうし

た心構えをもつことができたらどんなにすばらしいことか。仕事にはコツというものがあり、そのコツをつかまなくてはいい仕事はできない。コツをつかむためには、ま

事への使命感によってくる。使命感が分かってくるから興味も湧いてくる。だから、その仕事に対して非常に理解がなくてはならない。そこから興味湧

き、熱意が湧いてくる。と言っている。高校球児に負けない程の熱意を持って日々の看護の仕事に努めたいと思っています。（看護部部長 坪内奈津子）